

第6回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム 閉会あいさつ 議事録

(新堀氏)

朝から大変ご苦労さまでございました。

実は私に総まとめというお話がありましたけれども、今、金澤座長のお話で大体全体がまとまったと思います。私の立場では、この県民会議ができました第1ステージ、これで大体終了です。2年間の間、暗中模索というか、手探りもありまして、特に公募委員の皆さん方には大変なご苦労をおかけしたように思っております。のみならず行政も相当頑張っているいろいろやってくださいましたことを、私のほうからもお礼を申し上げておきたいと思います。

ただし、問題はこれからです。私は自然保護という問題について40年近く神奈川県で活動してまいりましたし、丹沢大山に関しましては、実は昭和20年代から自分で山を歩いており、昆虫の調査でも入っておりましたので、熟知をしておりますが、丹沢大山再生につきましては、総合調査で大変な詳しい結果が2回にわたって出ています。その2回にわたっての結果で、実はもう山の状態は大変なことになっているということは、再三、再四警告がされているんですけども、なかなかこれが再生するような政策、施策というものができなかった。それに今度は水源環境税がついたためにオーソライズされて、ブナ林の再生も人工林の再生も具体的にできるようになってきた。

しかし、それもまだ緒についたばかりでございます。ですからこの5年間の間に一応どこまでやれるかと、税金を負担していただいた全県民の皆様方に、これだけやれたという成果が目に見えて出るかどうかということは、1つの大きな問題だと思います。はっきり言って、なかなかこれは出ません。これは実際に山を知っている人でないとわからない。そういう問題がありますけれども、特に大都会の県民の方々、政令指定都市の方々は水の恩恵についてやはり実感を持っていらっしゃる。まだまだ水道をひねれば水がジャッと出るという、それだけの感覚が非常に多いと思います。しかも、水源環境というものがどうなっていて、その範囲がどこまで行っているかという点はなおさらかと思えます。今日私が大変うれしかったのは山梨県知事がここに見えたことです。我々の水源環境の大も

とはやはり丹沢大山でありますけれども、同時に相模川の上流である桂川が、これは丹沢大山と同じぐらいの広さの流域で山梨県にあります。ですからその部分と一緒にやらなければ、水源環境というのは本当は我々としては、安心できない状態にあるということを十分に認識をしていただきまして、この次のステージはその方向に向かって大いに頑張る企画をし、調査をし、進めていかなければならないということがひとつ。

それからもう一つは、やはり現実に仕事をしているのは県の行政であります。県の行政に対して私どもは、しっかりやってほしいとこれをただただ念願するのみであります。そのためには我々県民が協働し、そして自分たちが前向きになって、県政と一緒に歩いていくという気持ちを持たなければいけない。絶えず県の行政に対して目を向けていかなければいけない、そういうふうにする次第でございます。

どうかひとつ、これは大変長いスパンで行わなければならない問題でございますので、皆様方のこれからのご支援、ご協力、そしてまたご勉強をぜひお願いいたします。今日は、本当に朝から長い時間、皆さん方のご協力を得ましてこの会ができましたことを、心から御礼を申し上げます、この会を閉じさせていただきますと思います。

ありがとうございました。（拍手）

（司会：沼尾氏）

新堀さん、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日のフォーラムを閉会いたします。

お帰りの際は、お忘れ物のないようお気をつけください。また、意見・質問用紙、アンケートをご記入いただいた方は、ホール出口にて係員が回収箱を用意しておりますので、そちらに入れていただきますようお願い申し上げます。

今日は誠にありがとうございました。